

月報 シオン山

2022年1月9日発行 (No376)

日本バプテストシオン山教会

☎803-0846 北九州市小倉北区下到津2-15-21

Tel(093)561-0772 Fax(093)561-0760 E-mail:bapshion@eagle.ocn.ne.jp

【月間聖句】

愚かな者としてではなく、賢い者として、

細かく気を配って歩みなさい。

(エフェソの信徒への手紙5編15節)

「人生を生かす無駄」

牧師 伊藤光雄

「イエスがベタニアで重い皮膚病の人シモンの家において、食事の席に着いておられたとき、一人の女が、純粹で非常に高価なナルドの香油の入った石膏の壺を持って来て、それを壊し、香油をイエスの頭に注ぎかけた。」

—マルコ14:3—

上掲の聖書は一人の女（マリア）がイエスに非常に高価なナルドの香油を注いだ場面ですが、ここはイエスの弟子たちをはじめとする多くの人たちは彼女のしたことは常識を超えた「無駄な行為」と決めつけたのです。恐らく私たちがその場面にあたれば同じように無駄と思ったかもしれません。

私たちの日常生活の中にはゆとりと無断が混在していて、なかなか二つを区別することが難しいときがあります。例えば人と待ち合わせ

のため時間より少し早く行くこと、何度もリハーサルをして本番に備えること、旅行をするとき少し多めに着替えを持っていくこと、宝くじを買うこと等こういったことの中には案外とゆとりと無駄の両方の面が混在しているかもしれません。

辞書を見ますと「ゆとり」とは、物事に余裕があつて窮屈でないことを意味します。ですから私たちはゆとりのある生活をしたいとあこがれたりします。一方「無駄」とはただけの効果や効用がないこと、役に立たないこと、無益なことを意味します。ですから私たちは無駄な人生を送りたくないと思います。しかし無駄なことは、本当に無駄で終わってしまうのでしょうか。実は無駄と思われるようなことの中には、人生を彩る何かがあるのではないかと思います。

確かに私たちの人生には時々無駄があります。例えば病気になったり、あるいは事故や災害にあつたりすることはある意味では人生の無駄と言えるかもしれません。何故ならば、これらは自分の人生にとっては無益だと思うからです。むしろ病気や事故は決して望ましいものではないと思うことの方が強いと思います。けれども自分自身が成長するためには、ときには人生の無駄と思えるようなことが必要な無駄であつたりするのです。

私たちの人生は一回限りです。しかも私たちの人生はリハーサルも、やり直しも来ませんから時には失敗することも、病気することも、事故や災害に遭つたりすることもあります。しかしそれらを全く経験しないで年を重ねてやがて世を去るということはまずあり得ません。

作家の曾野綾子さんは「老いの僥倖」の中で、人は悲しみの中で本当に出会うものだと思ふ。人間が神と出会うのも、多くの場合そういう時なのである。それは悲しみの中でこそ人は本来の人間の心に立ち返るからなのである。さらに病気や苦しみが人間をふくよかなものにするというケースはよくあるのだが、それはそのとき今まで自信に満ちていた人も信じられないほど謙虚になるからであるということを書いています。

イエスに高価な香油を注いだ一人の女の行為は、この世的にはこれほどの無駄はありません。しかし見方を変えれば、これほど愛に溢れた高価な行為はありません。ですから彼女のした行為は2000年が経った今も世界中の聖書を読む人の心に刻まれています。

私たちの人生はほんのわずかな成功と実に多くの失敗、思い通りにならないことからなっています。しかし多くの失敗の中に実は人生を美しく彩る宝が埋もれているのです。発明家エジソンは「発明に必要なものは1%のひらめきと

99%努力である。」という言葉を残しています。言い換えるならば1%の成功には99%の失敗と無駄を繰り返す中での努力と言えるかもしれません。無駄は決して無駄で終わらないのです。何故ならば神が働かれて「益」と変えられるからです。